

〈特集〉仲間とともに学ぶ体育・保健体育授業～男女共習～

1 はじめに

日本の教育現場では、個々の生徒が持つ多様な能力を最大限に引き出し、将来社会での活躍を支える資質・能力を育成することが重要とされている。中でも、高等学校体育における「男女共習」は、ジェンダー平等の推進と生徒同士の協調性を養うための重要な取り組みとして位置付けられている。男女共習は、性別による固定観念を超えた学びを提供し、生徒が相互に尊重し合いながら成長する機会を創出するものである。

本特集では、男女共習に関わる歴史的背景、教育的意義、実践事例、評価方法、課題とその解決策を詳しく紹介し、現代の社会における高等学校保健体育の授業に求められているものを示していく。

2 男女共習に関わる歴史的経緯：男女共習の導入の経緯とその必要性

体育教育における男女共習は、世界的なジェンダー平等の流れを受けて導入された。特に、1970年代以降、欧米諸国を中心に共学化が進展し、日本でもこの動きを反映して、男女が共に学ぶ環境の整備が進められてきた。

文部科学省は平成30年の学習指導要領の改訂において、体育の授業に男女共習を取り入れることで、生徒が互いの個性を尊重し、共に成長する場を提供することを推奨した。この背景には、性別に基づく固定観念を打破し、すべての生徒が平等に学ぶ権利を享受する社会の実現がある。

保健体育科については、これらの平成28年12月の中央教育審議会答申の趣旨を踏まえて、次の方針によって改訂を行った。

(中略)

- ③ 運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して指導内容の充実を図ること。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育・体育編（P9）

(3) 内容及び内容の取扱いの改善

「体育」

ウ 運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した内容及び内容の取扱いの充実

豊かなスポーツライフを継続していくためには、運動の技能を高めていくことのみならず、体力や技能の程度、性別や障害の有無、目的等の違いを越えて、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することが求められる。そのため、新たに共生の視点を踏まえて指導内容を示すこととした。

また、「内容の取扱い」及び「指導計画と内容の取扱い」に、生徒が選択して履修できるようにすること、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず運動やスポーツを楽しむことができるよう男女共習を原則とすることを示すとともに、生徒の困難さに応じた配慮の例を示した。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育・体育編（P13）

3 男女共習の教育的意義

男女共習は、保健体育教育において生徒が多様な価値観を共有し、共通の目標に向かって協力する能力を育むための重要な手段である。共習を通じて、男女間の身体的な違いや役割の違いを認識しつつ、それを尊重する姿勢を養うことができる。このような学びは、将来の社会において他者と協力し、異なる背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを図るための基礎となる。また、男女共習は、生徒が個々の能力を発揮しつつ、グループとしての成果を上げるための協調性や社会性を培う場でもある。

3 運動の多様な楽しみ方

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成に向けては、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができるようにすることが重要である。

体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、原則として男女共習で学習を行うことが求められる。(中略)

また、障害の有無等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現とともに、スポーツを通じた共生社会の実現につながる重要な学習の機会であることから、(中略)指導の充実を図ることが大切である。

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 保健体育・体育編（P226）

上記のとおり、学校の授業は、生徒にとって重要な学習の機会となる。男女共習がもつ教育的意義は非常に大きなものである。

4 実践事例

(1) 体育に関する調査結果

県では県内公立高等学校の保健体育に関する取組状況を把握するため、毎年度当初に調査を行っている。

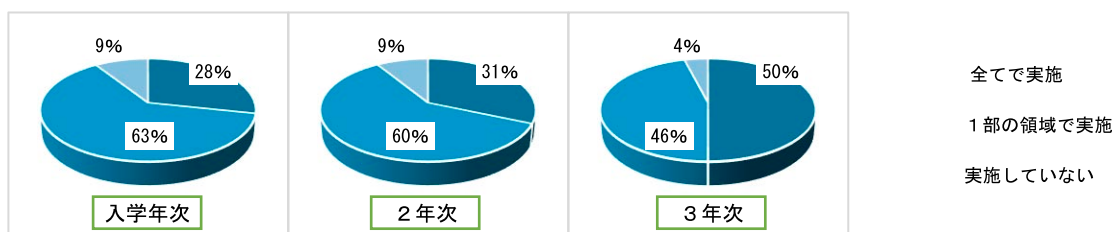
調査期間：毎年 5 月末時点の状況を提出

調査対象：埼玉県公立高等学校（さいたま市を除く）全日制課程（134 校）、定時制課程（24 校）

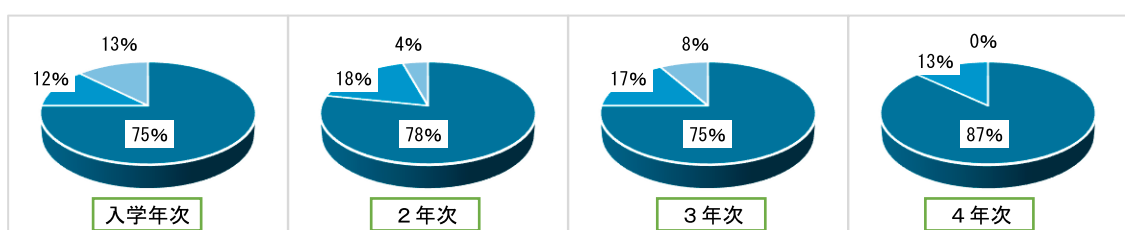
調査内容：体育の授業における男女共習授業の実施状況等

調査結果：男女共習の実施状況について

①全日制課程



②定時制課程



(2) 埼玉県立吹上秋桜高等学校（第77回埼玉県学校体育協会講習会発表）

本授業は、令和6年度高等学校体育地区研究協議会の際に、研究授業として実施した「球技」ゴール型の男女共習授業である。令和6年12月13日（金）にスポーツ総合センターで開催された第77回埼玉県学校体育協会講習会で発表があった資料を掲載する。

授 業 日：令和6年11月1日（金）第4時限 グラウンド

実施クラス：第3学年1・2・3組 61名（男子28名・女子33名）

授 業 者：埼玉県立吹上秋桜高等学校 教諭 山田 充

運動好きな生徒を育成するための授業の工夫と改善
～タグラグビーによる男女共習授業の実践～



埼玉県立吹上秋桜高等学校 保健体育科教諭 山田 充

発表の流れ

- ① 本校の紹介
- ② 実践授業について
- ③ 今後の展望
- ④ 男女共習について
- ⑤ まとめ

① 本校の紹介
・生徒の実態
・保健体育の授業について

①本校の紹介

平成22年4月1日 開校

定時制課程 単位制総合学科

目指す学校像 生徒の新たなチャレンジをとことん支援し、可能性を伸ばす生徒応援学校

生徒数 499名

吹上高等学校
鴻巣高等学校（定）
熊谷女子高等学校（定）
深谷商業高等学校（定）

○生徒の実態

中学時代不登校を経験した生徒が多い。

（不登校経験者約60%）

運動に対する苦手意識が強い。

運動部加入率は低い。

○保健体育の授業について

【体育】2単位（1～3年次）

I部 A:1,2,3組 B:4,5,6組

II部 C:7,8組

【体育総合】2単位～（2年次以降）

2年次以降 全員が1講座以上必ず履修。

【スポーツⅡ】2単位～（2年次以降）

2年次以降の体育に意欲的な生徒が受講。

○保健体育の授業について

【保健】2単位（2年次）

2年次で全員が履修

※半期ごとの認定になるため。

○保健体育の授業について

【体育】・【体育総合】は

原則 **男女共習**で実施

- ② 実践授業について
- ・運動好きな生徒を育成するための授業の工夫と改善について



○実践授業について

球技 ゴール型 タグラグビー



○授業の流れについて

- 共習 (1) 準備体操・補強
- (2) タグ取りトライゲーム 別習
- 共習 (3) 知識の習得
- (4) 試合 別習
- 共習 (5) 振り返り



ねらい

- ・知識の習得 ～ルールを理解～（ノックオン）
- ・運動能力や性別、ひとり一人の違いを理解する
- ・成功体験の充実

※資料で使用しているルールの名称は改定前の名称です

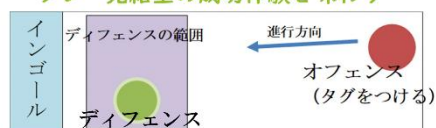


- ・運動好きな生徒を育成するための授業の工夫と改善



タグ取りトライゲーム

～プレー完結型の成功体験を味わう～



オフェンスはボールを保持してタグをつける。
ディフェンスは範囲内でオフェンスのタグを取りに行く。
多様なステップを取り入れインゴールにトライを目指す。
突破されないようにタグをとる感覚を身に付ける。



1対1のマッチアップ



多様なステップを行う

左に切り返す



抜けた！



右にいくと
見せかけて



女子も積極的に参加します



タグをとる感覚を養う



タグ！！



やったー！



ゲームは男女別習
(体格差・能力差が生じるため)

準備体操・補強・説明・知識の習得、
振り返り場面は男女共習

体力や技能の程度、性別を超えて、
仲間とともに球技を楽しむための環境の整備



体育祭で男女共習のダンス演技を实践



生涯にわたる豊かなスポーツライフの
実現に向けた学習機会

ひとり一人の違いに気付くことができる

他者とのより良い関係を構築し、
生活していく基盤を育成する



⑤ まとめ



まとめ

～運動好きな生徒を育成するために～

- ①成功体験の充実
- ②「褒める」「ポジティブ」な言葉かけ
- ③チャレンジしてみようと思う雰囲気の醸成



ご清聴ありがとうございました。



本授業は、全ての生徒が同じ学びをともにし、思考し合いながらも、豊富な活動量を得ることができた。また、なじみ深い領域である球技（ゴール型）とはいえ、「ラグビー」という中学校では取り扱わない、生徒にとっては初めて経験する競技であったために、生徒はルール等の知識を学習しながらの実施で戸惑いもあったと推察する。

授業者である山田教諭は、少しずつルールを取り上げて、丁寧に説明しながら「ラグビー」がもつ特性を十分に生かしたドリル学習を設定していた。また、「ラグビー」が本来もつ魅力に、ミニゲームでの成功体験によって深く触れさせたりしながら学習を進めることができていた。

本授業では、接触を禁止としたタグラグビーを採用し、またボールもクッション性のある柔らかいボールを使用した。そのため、運動が苦手だという生徒にも積極的に活動する姿が見られた。

球技（ゴール型）の領域の中でも、一見、敬遠しがちな競技であるが、山田教諭の生徒を思う熱意と工夫で大変盛り上がり、笑顔と喜びがあふれた授業となった。

授業のまとめでは、ICTを活用して感想の提出を行った。生徒は手慣れた様子でアンケートフォームに入力し、瞬時にたくさんの感想を共有することができていた。

本授業は、ルール等の知識を習得し、協働活動により「思考力、判断力、表現力等」を育成することができていた。また、多くの活動量とICTを使った活動を取り入れることができ、模範となる男女共習授業であった。

(3) 授業実践

その他、授業実践を紹介する。各校においては、実態に合った方法を模索し、工夫と改善を重ねて実践していくことが大切である。

① 具体的な事例1：球技における男女共習

男女混合チームを編成し、バスケットボールの試合を行う。生徒たちは、チーム内で役割を分担し、性別による体力差を補い合いながら、試合に臨む。この実践では、男女が協力して共通の目標を達成する経験を提供し、生徒間の連帯感を深めることに寄与している。

さらに、ゲーム後には振り返りの時間を設け、互いのプレーを評価し合うことで、自己認識の向上や他者への理解を深めている。

② 具体的な事例2：ダンスにおける男女共習

ダンスの授業では、男女ペアで創作ダンスを行う活動が取り入れられている。この取組では、男女が互いのアイデアを出し合い、協力して振り付けを作成している。生徒たちは、性別の違いを超えて一つの作品を創り上げることで、創造性と協調性を高めている。完成したダンスを披露する際には、達成感とともに、互いの努力を認め合うことで、学びの喜びを共有することができる。

③ その他：各領域での実践例

【陸上競技】

・リレー：男女混合リレー

チームを男女混合で編成し、バトンパスの練習を強化しながら協力する機会を増やす。

【ダンス】

・グループダンス：自由な振り付け作成

グループごとに振り付けを創作し、発表する場を設けて他のグループと共有する。また、性別にこだわらず自由にグループを組むことで、多様な交流を促進する。

【器械運動】

・跳び箱：段階的な高さ設定

個々のレベルに応じた跳び箱の高さを設定し、課題の達成に向けて、グループ内で試行錯誤し、協働活動により多様な交流を促進する。

【武道】

・剣道：演武形式

実戦形式ではなく、技の披露を目的とした演武形式で練習を行い、発表を行う。基本技の習得に重点を置き、技の美しさと正確さを互いに評価する。

【水泳】

・リレー：男女混合チームでのリレー

チームを男女混合で編成し、協力してタイムを競う。

【体づくり運動】

・ストレッチと柔軟運動：ペアでの柔軟運動

ペアを組んで互いにサポートしながら柔軟運動を行う。

これらの方法を活用することで、体育授業において男女共習を効果的に実施し、生徒の協力や理解を深めることができる。

5 学習計画と学習評価

(1) 学習指導の工夫

男女共習を効果的に行うためには、授業計画において慎重な配慮が必要である。例えば、球技の授業では、性別による体力差を考慮し、ルールを調整することが推奨される。また、チームで協力するプレイを促進するゲーム形式を採用することで、生徒たちが自然に協力し合う環境を作り出すことができる。さらに、個々の生徒のニーズに応じた指導を行うことで、全員が公平に参加し、楽しむことができる授業を実現する。

(2) 学習評価

男女共習における評価は、技術的なスキルだけでなく、協力性や態度を重視することが求められる。具体的には、授業後の自己評価や他者による評価を活用して、生徒が自らの成長を振り返る機会を設けることが有効である。また、教師は、個別の努力や進歩を評価するために、観察の記録やポートフォリオ評価を取り入れることが考えられる。このような多面的な評価アプローチにより、生徒たちの多様な能力を適切に評価することが可能となる。

6 課題と対策

(1) 課題

男女共習には、性別に基づく体力や能力の違い、文化的背景による偏見といった課題が存在する。これらは、授業の進行や生徒の意欲に影響を与える可能性がある。特に、競技によっては、男女間の能力差が大きく出ることがあり、これが生徒間の不公平感や事故を生むこともある。

(2) 対策と提案

こうした課題に対しては、事前の対策が必要である。まず、活動前に生徒たちに性別に関する説明を十分に行うことが必要である。また、生徒間で話し合いを行うことで、共習への理解を深めることが重要である。次に、授業内容や競技選択に柔軟性を持たせることで、生徒一人ひとりの特性に合わせた指導を行う。また、チーム編成の際に、男女のバランスを考慮し、各生徒が自分の強みを発揮できるような環境を整えることが大切である。

7 まとめとこれからの展望

(1) まとめ

男女共習は、高等学校体育において生徒たちが協力し合い、互いを尊重する心を育むために重要な取組である。本特集を通じて、男女共習の理論的背景、実践事例、授業計画と評価、課題とその解決策を紹介してきた。男女共習を通じて、生徒たちは自己の可能性を広げるとともに、社会で必要とされる協力性や共感力を身に付けることができる。

(2) これからの展望

今後、男女共習の取組が全国的に広がり、体育の授業が生徒たちの多様な学びの場となることが期待される。男女共習を通じて得た経験や学びは、生徒たちが社会に出た後も、他者と協力し合い、共に成長する基盤となることと考えられる。ジェンダー平等が浸透する社会の中で、体育教育が果たす役割はますます重要性を増しており、今後の発展が必要不可欠である。併せて、各校の保健体育の授業が、教師の熱意と工夫により喜びと笑顔であふれる授業になることを期待している。